

中四国地方の幹線道路網 整備等に関する要望書

平成23年11月

中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会

中四国地方の幹線道路網整備等に関する要望

島根県、広島県、愛媛県、高知県に所在する44の経済団体で組織する中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会は、中四国地方が一体となって広域的かつ自立的な経済交流ネットワークを構築するため、様々な交流・連携事業に取り組んでおります。

地方分権を視野に入れ、各々の地域が産業活力を高めるためには、広域にわたる産学官の連携、地域経済の担い手である企業の活性化、さらには、地域資源を活かした観光振興を推進しなければなりません。これを実現するには、地域単独でなく広域にわたる交流と連携を強化し、一体的な発展を図ることがぜひとも必要であり、そのためには、高速道路はもとより、地方都市間を結ぶ路線を含めたネットワークの形成が不可欠であります。

去る3月11日に発生した「東日本大震災」は、東北から関東にわたる広い範囲に甚大な被害をもたらしました。この未曾有の国難にあつて、まずは被災地の復旧・復興に全力を挙げることが、国の最優先課題であると同時に、中四国地方においても地震・津波等の災害に強いインフラ整備を果敢に行うことが責務であると考えます。

こうした中、今後の道路整備にあたっては、費用対便益だけではなく、今回の大震災を教訓に、災害時の避難路確保や物資運搬等を円滑かつ確実に実施するための代替性・多重性を確保することが重要であります。

さらに、中四国地方においては、人口の減少や少子高齢化が全国に先駆けて進み、過疎化の進む中山間地域も多く抱えていることから、防災の面だけでなく、医療など「命の道」という面からも道路網の果たす役割は極めて大きいものがあります。

以上の考えのもとに、次の事項についてご配慮いただき、当地域の切望いたします別掲の真に必要な幹線道路網について早期の整備を図っていただきますよう強く要望いたします。

記

1. 広域的かつ自立的な経済交流ネットワーク形成のために必要な幹線道路網の計画的かつ早期の整備
2. 地域の特徴を最大限に発揮させるための都市圏交通基盤の整備促進
3. 安全で安心な災害に強い道路ネットワークの形成
4. 真に必要な道路整備を計画的に推進するための予算確保

中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会
整備要望路線

1. 中国横断自動車道尾道松江線の整備促進
〔 ・ 世羅～三刀屋木次間 〕

2. 山陰自動車道・関連区間の早期整備
〔 ・ 出雲・湖陵道路、多伎・朝山道路、朝山・大田道路、
静間・仁摩道路、仁摩・温泉津道路、浜田・三隅道路、
益田道路の整備促進
・ 湖陵～多伎間、大田～静間間、温泉津～江津間、
三隅～益田間、須子～小月間の早期事業着手 〕

3. 四国横断自動車道・関連区間の早期整備
〔 ・ 中土佐～窪川間および宇和島北～西予宇和間の整備促進
・ 窪川～金上野間、拳ノ川～四万十間、内海～岩松間および
宿毛～内海間の早期事業着手
・ 中村宿毛道路、宇和島道路、片坂バイパスの整備促進 〕

4. 今治小松自動車道の整備促進
〔 ・ 今治～今治湯ノ浦間 〕

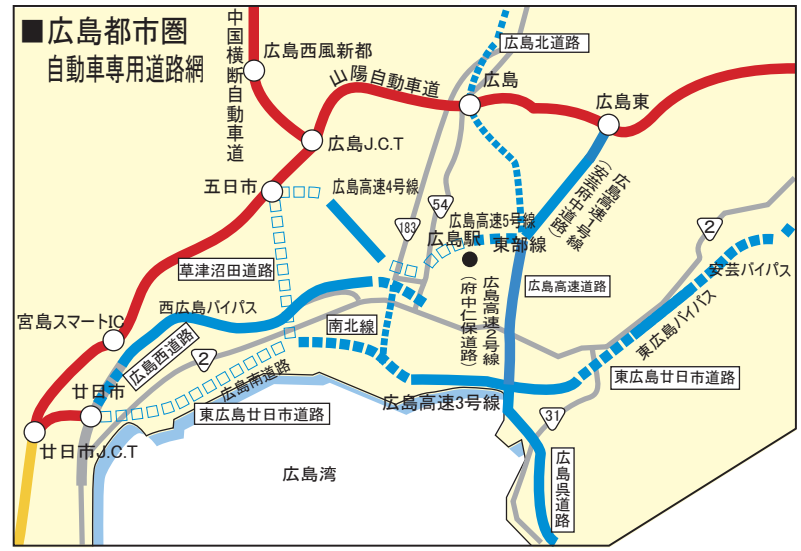
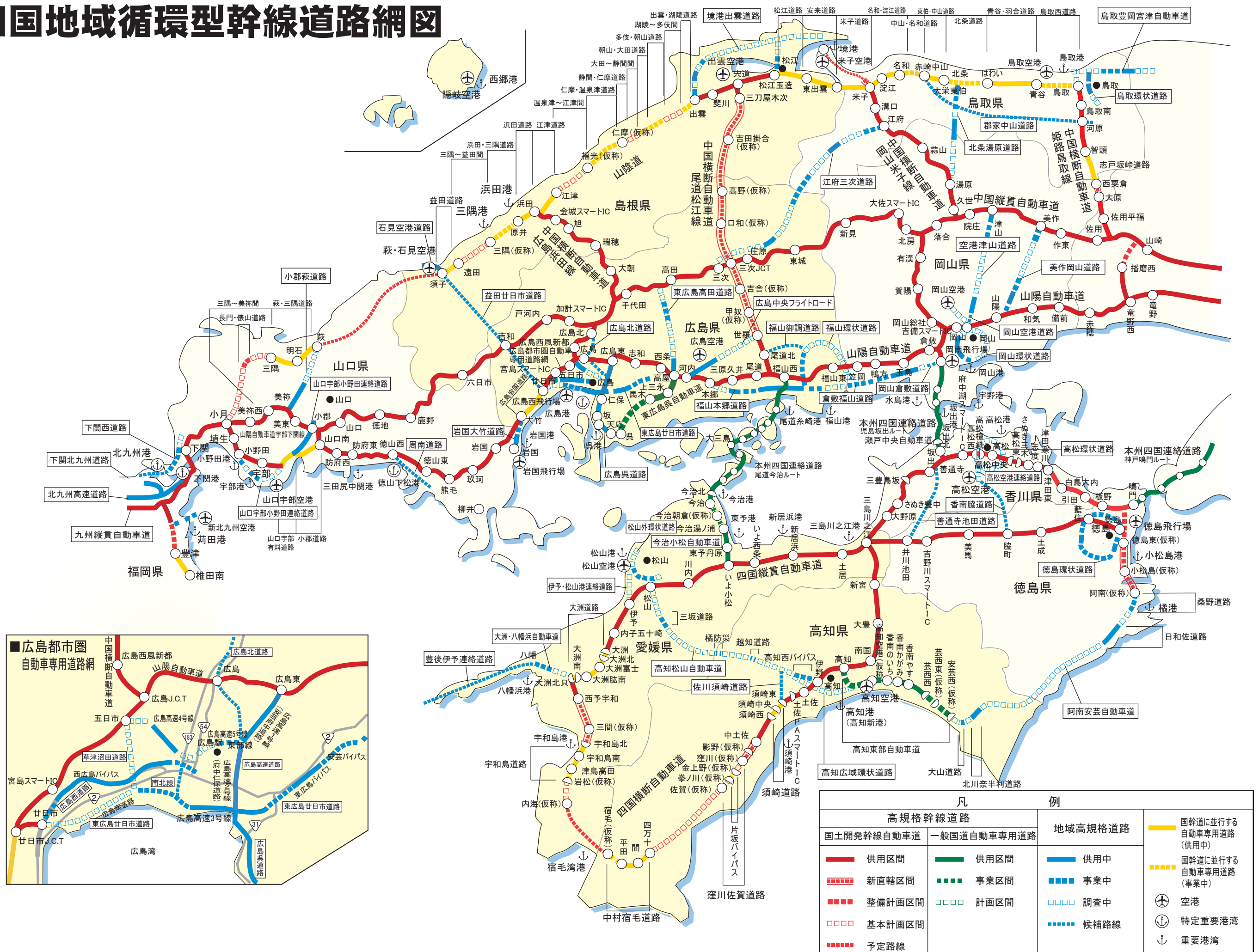
5. 高知松山自動車道・高知東部自動車道・阿南安芸自動車道の整備促進

平成 23 年 11 月 日

中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会

会 長	深 山 英 樹	広島商工会議所会頭
副 会 長	古 瀬 誠	松江商工会議所会頭
副 会 長	白 石 省 三	松山商工会議所会頭
副 会 長	西 山 昌 男	高知商工会議所会頭
副 会 長	宮 脇 和 秀	島根経済同友会代表幹事
副 会 長	高 木 一 之	広島経済同友会代表幹事
副 会 長	鈴 木 欽次郎	愛媛経済同友会代表幹事
副 会 長	植 田 賢 治	広島県商工会連合会会長
副 会 長	村 上 友 則	愛媛県商工会連合会会長
副 会 長	浜 田 敦 夫	高知県商工会連合会会長
副 会 長	山 下 隆	中国経済連合会会長
副 会 長	常 盤 百 樹	四国経済連合会会長

中四国地域循環型幹線道路網図



凡		例
高規格幹線道路		地域高規格道路
国土開発幹線自動車道	一般国道自動車専用道路	国幹道に並行する自動車専用道路(供用中)
供用区間	供用区間	国幹道に並行する自動車専用道路(事業中)
新直轄区間	事業区間	空港
整備計画区間	計画区間	特定重要港湾
基本計画区間		重要港湾
予定路線		